

私のすすめるこの1冊

小長谷 直樹（連合教職実践研究科 教授）

『この夏の星を見る』

辻村 深月（著）

2020年の夏、みなさんはどんな学校生活を送っていたでしょうか？

この年の3月、新型コロナウイルス感染症の拡大により全国の学校が一斉に臨時休校となりました。4月・5月も休校が続き、新しい生活様式のもとで、修学旅行や体育大会などの行事、各種大会やコンクールが次々と中止になった、まさにあの夏です。

ソーシャルディスタンス、三密回避、濃厚接触——。マスクが当たり前になり、互いの素顔さえ曖昧になっていた頃、「コロナだから仕方ない」という言葉があふれ、閉塞感の中でモヤモヤと過ごした人も多かったのではないのでしょうか。目標を奪われ、悔しい思いをした人も少なくなかったはずです。

本書には、そんな苦しさを抱えながらも「今をなかつたことにしたくない」と願う中高生が登場します。茨城・東京渋谷・五島列島という離れた地域の生徒たちがオンラインでつながり、スターキャッチコンテスト（自作した望遠鏡による天体観測）を開催する物語です。活動には多くの制約がありますが、生徒たちは「大人はこの一年を、コロナがどうなるかわからない中で『様子見』の年にしてしまいたいのではないかな。それが悔しい。今年の私たちにも胸を張れるものは必ず作れる。大人たちに見せつけてやろう」という思いを抱き、「このままでは夏を迎え撃てない」と行動を起こしていきます。

登場する教師たち（天文台の館長を含む）もとても素敵です。教師同士がオンラインでつながり、互いにアイデアを出し合い

学び合いながら、表立って指導するのではなく、生徒を信頼して支え、静かに見守る姿が描かれています。子どもたちの「今」を大切にしようとする教師たちの思いが強く伝わってきます。

少し話は逸れますが、この年、私の勤めていた学校の合言葉は「できないからとあきらめるのではなく、何ができるか考えよう」でした。林間学習が中止となった5年生の子どもたちは、運動場でキャンプファイヤーができないかと考え、それを後押しする学年教師は、かまど体験もさせたいと提案してきました。グラウンド使用の許可、近隣への配慮、薪の確保、30班分ものかまどの資材、食べられるものの検討、夜の下校……課題は山積でしたが、子どもたちと教師が中心となって一つずつ解決し、囲んだキャンプファイヤーの高揚感は忘れられないものとなりました。私の学校の教師たちもまた、子どもたちの「今」を「様子見」で終わらせたくないと考え、コロナ禍でも子どもたちと共に工夫し、楽しい学校をつくっていったのです。

話を本書に戻します。新型コロナウイルスは、子どもたちの日常や学校の当たり前を奪ってしまう大きな危機でした。みなさんも当事者として、当時の状況や登場人物の気持ちに強く共感できるでしょう。物語には、コロナによって家族が壊れてしまう生徒や、転校を余儀なくされる生徒も描かれています。しかし読後には、彼らが互いにつながり、優しさを持って前に進んでいく姿に、子どもってすごいなと改めて感じてしまいます。そして、生徒の「今」を充実させようとして支え続けた教師たちの温かさや大きさに、思わず憧れを抱いてしまうのです。

予約制!図書館ツアー・講習会に参加しよう!

図書館ではさまざまな講習会を、予約制で開催します。レポート・論文を執筆する前に、図書館職員から施設・サービス・資料の利用法を聞いてみませんか?

【実施期間】4月10日(金)~5月29日(金)

【申込方法】氏名・専攻・人数・希望講座・希望日時(曜日・時限(平日11:30~17:15まで))を明記の上、以下のメールまたはGoogleフォームから前日までにお申し込みください。調整の上、いただいたメールアドレスに開催日時を連絡いたします。

・メール:library@kyokyo-u.ac.jp

・Google フォーム:QR コードから申込可能

【集合場所】附属図書館カウンター

詳細は、ホームページやポスターで!



(Google フォーム)

ご参加お待ちしております!



2026 前期ブックハンティング 参加者募集!!

実際の店舗で図書館におく本を選ぶ「ブックハンティング」に参加する学生を募集しています。ひとり2万円の予算で好きな本を選び放題(但し、雑誌,CD,DVD,その他娯楽目的の本は除く)。

たくさんのご応募お待ちしております。

【店頭選書日時】6月10日または17日(水)14:30-16:30

【場所】丸善京都本店(河原町 BAL 内)現地集合・現地解散

【応募〆切】6月1日(月)まで

【申込方法】件名に「ブックハンティング申込」、本文に①学籍番号,②氏名,③当日の連絡先,④参加可能日,を明記してlibrary@kyokyo-u.ac.jp宛に送信。または館内設置の申込書でも可能。

Part 1

『リクエストと投票で話題の本を読もう!』で購入した図書からいくつかピックアップして、月別に紹介します。

リクエストと図書館員が選定した巻で話題の図書を対象に、みなさまの投票で購入が決まります。2015年度より、毎年実施している人気の企画です。昨年度も、リクエスト・投票をありがとうございました。話題の本をぜひご利用ください。

リクエストと投票で話題の本を読もう!

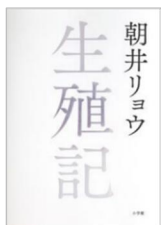
学生・教職員のみなさまからのリクエストをお待ちしています。どんどん参加してください!リクエストは随時受付中です。

【投票期間】5月14日(木)~6月12日(金)

4月



朝井リョウ
『生殖記』
(小学館)



山口未桜
『禁忌の子』
(東京創元社)



あかね書房
『子どものころ戦争があった』
(あかね書房)

5-6月



澤田瞳子
『京都の歩き方』
(新潮社)

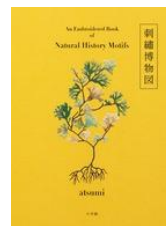


土屋うさぎ
『謎の香りはパン屋から』
(宝島社)



伊与原新
『藍を継ぐ海』
(新潮社)

6-7月



Atsumi
『刺繍博物館』
(小学館)



宮島未奈
『それいけ!平安部』(小学館)



京都教育大学 それはかなう夢講座

「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。

第51回のお知らせ

YouTubeで5月中旬に公開予定

【講師】神崎 真実
(教育学科 講師)

【テーマ】不登校を通して学校コミュニケーションを考える
<概要>不登校の子どもが増えるいま、私たちは不登校をどのように理解すればよいのでしょうか。文部科学省の調査などでは、年間30日以上欠席が不登校として扱われ、この基準によって登校している子どもとの線引きがなされています。しかし実際にはその境界ははっきりしたものではなく、遅刻や早退を繰り返す子や教室に入りづらい子など、多くの子どもが学校生活の中でさまざまな困難を抱えています。

本講座では、不登校や学校適応に関する研究を手がかりに、学校で生じる対人関係やコミュニケーションの問題を心理学的な観点から見直し、日常的な関わりについて考えます。

主催:「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会
後援:京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

今までの日も視聴できます。ぜひ、ご覧ください！



おすすめ本紹介原稿を募集します！

あなたのおすすめ本を紹介しませんか？

図書館に所蔵されている本の中から、皆さんの愛読書や心に残っている一冊を紹介してみませんか。寄稿いただいた原稿は、図書館ニュースに掲載いたします。

【文字数】300~400字程度

【校正】1回のみ

【提出方法】原稿を Word ファイルで作成し、メールに添付して library@kyokyo-u.ac.jp 宛てにお送りください。

【掲載方法】掲載の可否・編集については図書館にご一任ください。

皆さんからのご投稿お待ちしております！



新着電子BOOKのポスターを展示しています

新規に購入した電子書籍のポスターを、「新着図書コーナー」の横で展示しています。各ポスターの下側にあるQRコードは切り離し可能ですので、読みたい本/興味がある本があれば切り取ってお持ち帰りください。

なお、学外から電子書籍を利用する際は「学認サインイン」を選択し、学内アカウントのID・パスワードを入力してください。



自動貸出機を更新しました

3月に自動貸出機を更新しました。画面のデザインは新しくなりましたが、これまでと同様に閲覧証(学生証・教職員証)と本を持ってきて貸出することができます。

自動貸出機のとりに使い方のポスターを掲示していますので、貸出する際の参考にしてください。



児童書コーナー(南館1階)

幼児教育科主催
えほんのもり

今月の絵本カード(学生作)

『おまえ うまそうだな』
作・絵:宮西 達也
出版社:ポプラ社



※児童書コーナーに
かわいいカードが
飾られています。
ぜひ見に来てくだ
さい。

ラーニングコモンズに情報処理センター(IPC)プリンタを設置しました

ラーニングコモンズの端末席近くに、情報処理センター(IPC)のプリンタを設置しています。印刷はポイント制で、IPC 端末にログインできる学生であれば利用可能です。**A4 モノクロ印刷のみ**で、ラーニングコモンズおよびグローバルスクエアの端末から印刷できます。ぜひご利用ください。



教育資料館 まなびの森ミュージアム

【5月の開館日時】

11日(月)、18日(月)、25日(月)
14:00~17:00



教育資料館 まなびの森ミュージアム
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **福嶋 祐貴** (連合教職実践研究科 准教授)

教育変革に対応したICT活用指導力の指標の開発と運用 —SAMRモデルとルーブリックに着目して—

福嶋 祐貴・岡田 裕平

京都教育大学紀要 2025, No.147, pp.155-172
URI: <http://hdl.handle.net/20.500.12176/9961>



本論文は、日本の学校教育における ICT 活用の現状と、その課題をふまえて、教師の ICT 活用指導力を的確に把握し、高めるための新しい指標を提案したものです。ICT の急速的な普及にもかかわらず、実際の授業では、「デジタルに置き換えただけ」の使い方が依然多いと指摘されています。また、子ども同士が協働で学ぶ場面では十分に活用されていないことも多いです。つまり ICT 活用の質が重要です。とはいえ、従来のチェックリスト型の評価では ICT の技術革新のスピードに追いつけません。

そこで本論文では、SAMR モデルとルーブリックを組み合わせることで、実践力の向上に役立つ指標の策定を試みました。SAMR モデルは ICT が授業をどれだけ変えているかを「代替・増強・変容・再定義」の4段階で捉える枠組みであり、ルーブリックは具体的な実践例をもとに評価基準を作る方法です。この二つを組み合わせることで、変化の速い ICT 教育にも対応できる柔軟な自己評価および自己研鑽が効果的に行えるようになります。

第一著者が担当する学校臨床力高度化系の授業では、SAMR ルーブリックを軸に据えたワークショップを試行していますが、「変容」「再定義」段階の具体像を共有することが難しく、それ自体切実な学修課題として議論を促しています。また、このワークショップは、個々の教師が自らの ICT 活用を振り返る契機となるだけでなく、学校全体としての ICT 活用の強みや課題を可視化する役割も果たします。SAMR ルーブリックは評価の枠組みにとどまらず、教師教育や校内研修の在り方を考えるうえでも有効なツールになりそうです。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要147号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)」の森 <https://ir.kyokyo-u.ac.jp/> に掲載されています。

開館日程 □9:00-20:00 ■9:00-17:00 ■10:00-17:00
■9:00-21:00 ■休館(CLOSED)

2026年5月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2026年6月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

6/1 創立記念日

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

●京都教育大学附属図書館ホームページ → <https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>



← 公式 Instagram

アカウント名称: 京都教育大学附属図書館

ユーザーネーム: @kyotokyoikuunivlib

京教図書館 News No.308 (2026年5月号)

発行日: 2026年5月1日

編集発行: 京都教育大学附属図書館

問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp



国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION